

「京都府文化力による未来づくり条例に基づく基本計画」中間案に対する御意見と京都府の考え方

- 意見募集期間 平成30年10月10日(水)～11月6日(火)
- 寄せられた意見 21名から28件の御意見をいただきました。

	意見の要旨	京都府の考え方
1	「京都」がどこを指すのかが不明瞭。この基本計画が、京都市内の文化資源を除いた計画なのか、あるいはそれらを含んだ計画なのかをもう少し明確にした方がよい。	本計画が、京都市も含んだ、「京都府全体を示したものであることを記載するとともに、書き方についても、わかりやすい表現となるよう努めてまいります。
2	京都は伝統、歴史等の集積地であり、文化を筆頭として心の豊かさを訴えることが重要で、京都府が何を指していくのか府民に示さなければならぬ。そのため、短い期間で議論するのではなく、じっくり時間をかけてはどうか。	市町村や審議会、また、本意見募集でいただいた意見を踏まえながら、スケジュールありきではなく、時間をかけた検討を重ねることとしております。
3	文化芸術は経済あつてのものであり、昔からタニマチが文化を支えてきたものである。文化による経済の活性化を前面に出した計画にしてはどうか。	本計画では、「文化資源を活用した経済の活性化」を7つの柱の1つと位置づけており、その中で、具体的な施策として進めることを、検討してまいります。
4	現在、小学校での「観劇事業」が大幅に減少している。子供たちが文化や舞台芸術に興味を持つために、「見る」、「触れる」機会を増やしてほしい。	本計画の7つの基本戦略の1つである「文化活動を担う人づくり」の施策の1つとして、学校・家庭・地域等と連携し、古典芸能や舞台芸術の体験・鑑賞ができる機会を提供する取組を進めてまいります。
5	文化を担う専門人材を育てるとしても、その後のフォローが重要。育てた人材に、しっかりと役割を与えることにも取り組んでほしい。	本計画に基づき、専門的な見地からの指導や助言、評価ができる人材や、文化活動を支える人材を育成する取組を、その後のフォローも含めて進めてまいります。 また、府内各地域における文化活動の振興を図るため、専門性を備えた人材の配置を進めてまいります。
6	文化活動には、現場経験があり、プロデュース能力のある人材が重要である。人材育成について、さらに推進してほしい。	
7	府が文化に係る専門家等を確保し、市町村に派遣するという取組はできないか。	

	意見の要旨	京都府の考え方
8	文化を保存するためには、氏子を持たない神社など、文化財の所有者に対する支援も取り組んでほしい。	御意見を踏まえ、伝統文化、生活文化の継承、文化財の保存、継承、活用のための効果的な施策として進めることを、検討してまいります。
9	日本独自の文化を身近に感じるため、文化に触れあう機会をさらに、増やしてほしい。	
10	「伝統文化、生活文化の保存、継承」のため、お寺で写経をする等、若い人がお寺や神社などを身近に感じられるような事業を開催してはどうか。	
11	昔は、お寺や神社で能などが披露され、住民が集まり、自然に、文化に触れることができていた。今はそういう機会が少なくなってしまったので、身近に文化に触れることができるような取組があればよい。	
12	文化の保存、継承について、地域の伝統的な行催事等について、継続のためのイベント化ではなく、行催事が持つ本質的な価値を存続させる取組が必要。	
13	文化財の防災対策として神社仏閣や博物館・美術館などの敷地内完全禁煙が必須と考える。貴重な文化財を未来に残していくためには、たばこを使用してはならないという防災意識の醸成に努めるべきと考える。	
14	京都の強みは、最先端の企業や研究所があること。多様な人材が交流する場所があれば新たな文化が生まれると考える。	御意見を踏まえ、多様な文化の交流による新たな文化創造について、先端技術と伝統的な文化が共存する京都ならではの効果的な施策として進めることを、検討してまいります。
15	企業人と文化人が異業種交流することで何か生まれそう。まずは交流する場所をつくってはどうか。	
16	行政の役割は人と人をつなぐことであり、そのためには目利きの力が必要。つなげることができる人材を見つけることが大事。	

	意見の要旨	京都府の考え方
17	地域文化について、文化の視点だけでなく、観光や生活、生業等も含め大きな視点を持って、「お茶の京都」、「森の京都」、「海の京都」などの地域文化をもっと強調してはどうか。	御意見を踏まえ、「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」、「竹の里・乙訓」など府内各地域の特色や今後の展開などを、基本計画に記載することとします。 また、その中で、「茶の文化」を活用した地域づくりについても、記載することとします。
18	「お茶の京都」については、地域の人々の生活や生業によって作り出されたお茶畑の景観、それを支え創りだしてきた地域の伝統・習慣、産業等が文化として歴史が伝えてきたもの。茶産業として地域の生業として息づいている山城地域の「茶の文化」の継承・発展の方向性を記載してはどうか。	
19	文化による経済の活性化は重要であり、行政も文化と産業を別々に推進するのではなく、両者一体となって取り組んでほしい。	部局横断的な連携など、府内外で幅広い連携体制を構築し、取組を推進してまいります。
20	文化を経済と結びつけていくためには、作品や商品をどうしたら買ってもらえるか考えていく必要があるので、行政には、積極的に支援いただきたい。	本計画の7つの基本戦略の1つである「文化資源を活用した経済の活性化」の中で、アート市場の拡大や若手芸術家等の支援、文化産業の振興等について、具体的な施策として進めることを、検討してまいります。
21	作品や商品の販売に補助金を効果的に活用して、利益がでると、補助金を返還する仕組みを整備する等、民間の取組を後押ししてもらいたい。	
22	経済の活性化のため、アート市場の拡大を目指す取組は行政として思い切った施策。現代アートだけでなく、最先端のゲームやアニメも取り込むとさらによい。	
23	才能ある芸術家にチャンスを与え、継続的に支援する取組が必要。	
24	芸術家や作家は、作品を売って商売とすることが下手であるため、見本市の開催のように売ることを助ける取組はよい。	
25	文化もビジネスから切り離すと成り立たない。儲かるならば民間も参入してくる。そういった視点で施策を検討してはどうか。	

	意見の要旨	京都府の考え方
26	「ゴールデンスポーツイヤーズ」に向けての文化発信の具体的記述がない。地域の豊かな自然環境に培われてきた文化としてのスポーツ(笠置町:遊びカヌー発祥の地等)等がある。スポーツ交流による新たな地域の魅力の国内外への発信が期待されており、地域に根ざしたスポーツ文化を、京都市にない地域の魅力として捉えて発信すべき。	地域に根ざしたスポーツ文化についても、SNS等を利用して、積極的に発信してまいります。
27	京都府立文化芸術会館の老朽化に伴う、建て替えについて、専門家、利用者の意見を反映し、改善・発展していただきたい。	府の所管する文化施設については、専門家等の意見も踏まえながら必要な整備に取り組んでまいります。
28	メディア(テレビ、ラジオ、新聞、フリーペーパー等)の連結化を図る等して、正しい京都の文化情報の発信とSNSへの誤った情報の流出を防ぐ体制づくりが必要と考える。	誤った情報発信をすることがないよう、注意を払うとともに、真に必要とされる奥深い京都の文化や魅力を発信できるように、取り組んでまいります。